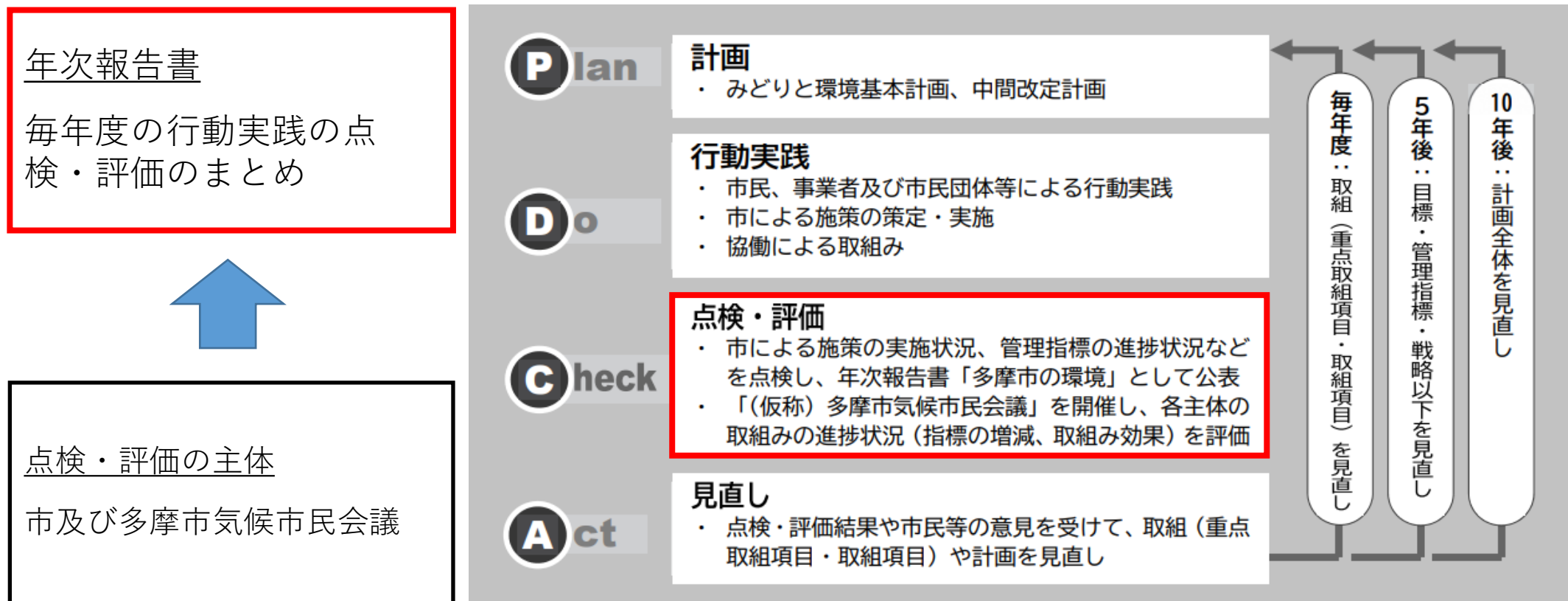


第 3 次多摩市みどりと環境基本計画の 令和 6 年度年次報告書について

1 基本計画における年次報告書の位置づけ

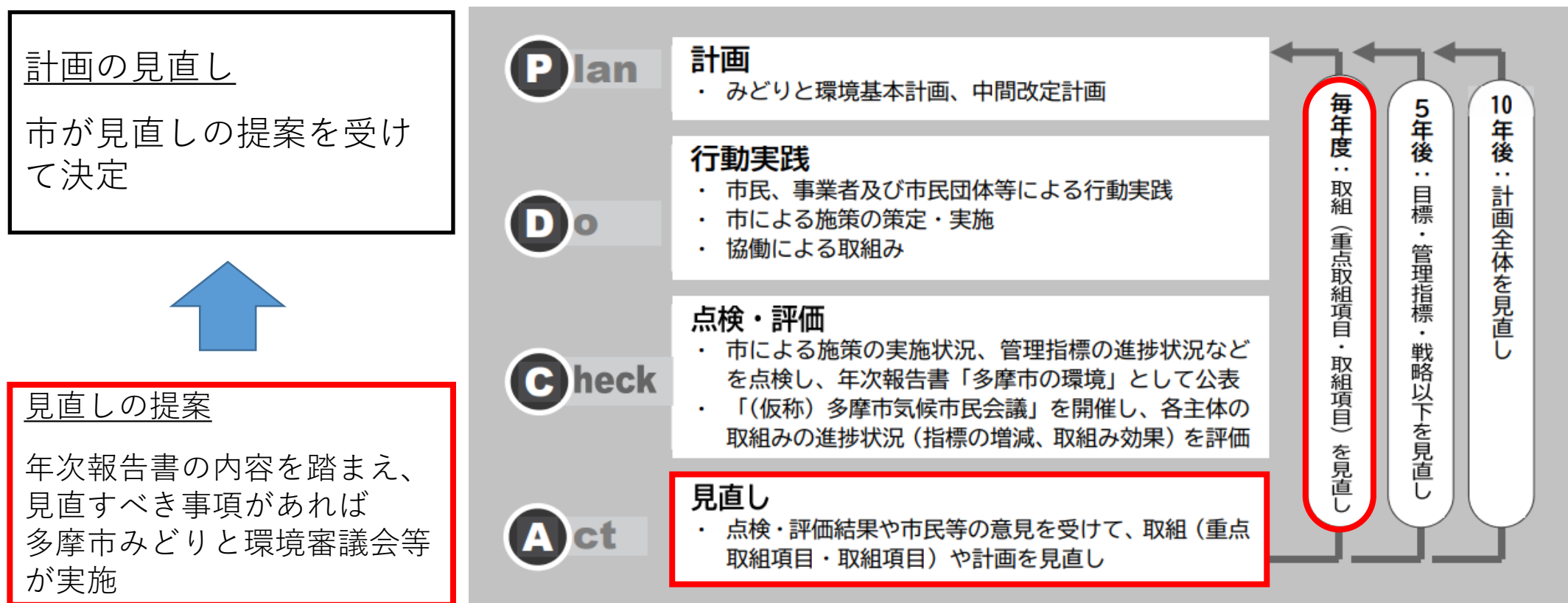
計画の進行管理PDCAサイクルのC（点検・評価）に該当



※第3次多摩市みどりと環境基本計画（6頁）より

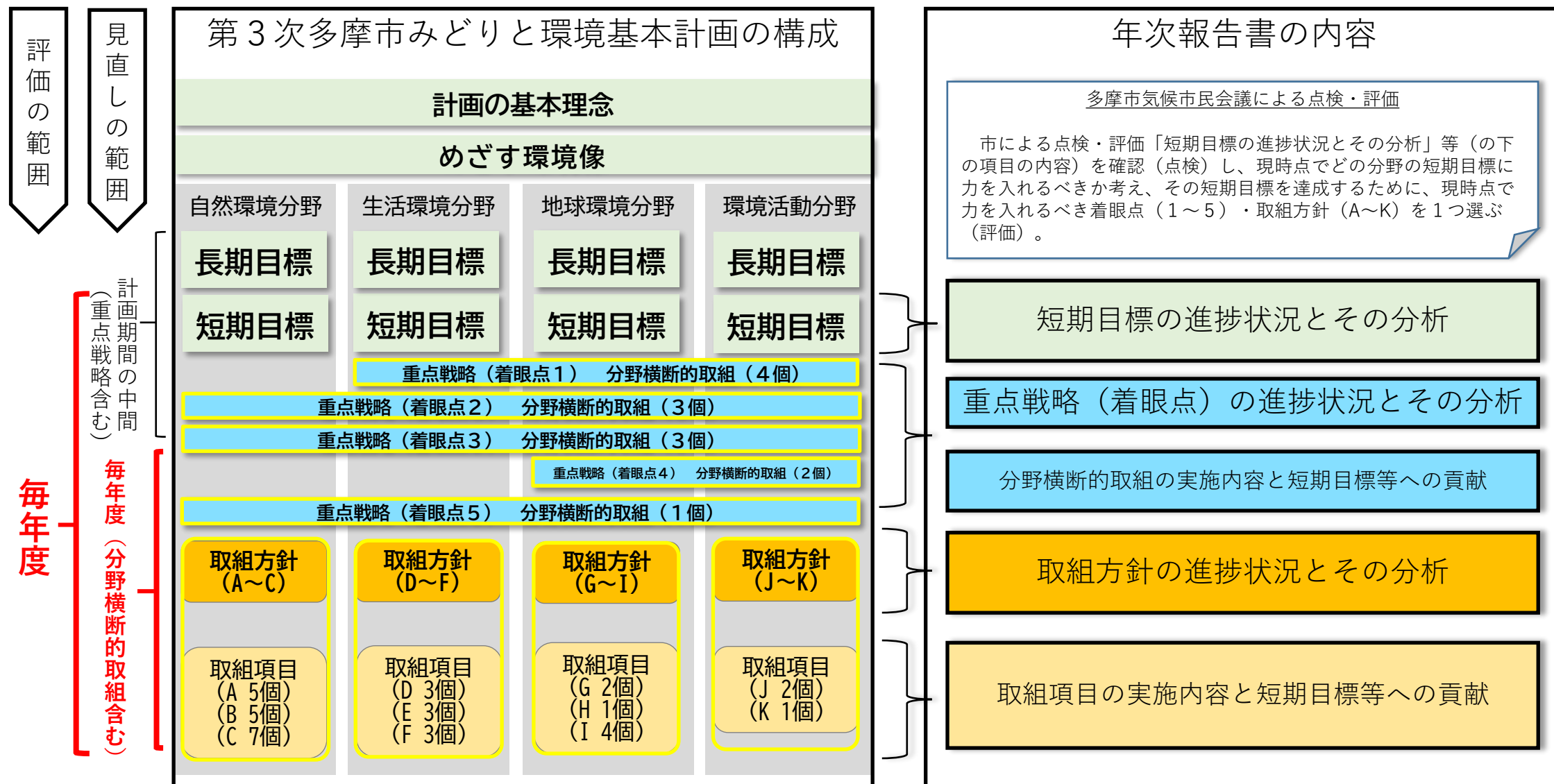
2 基本計画の見直し

計画の進行管理PDCAサイクルのA（見直し）に該当



※第3次多摩市みどりと環境基本計画（6頁）より

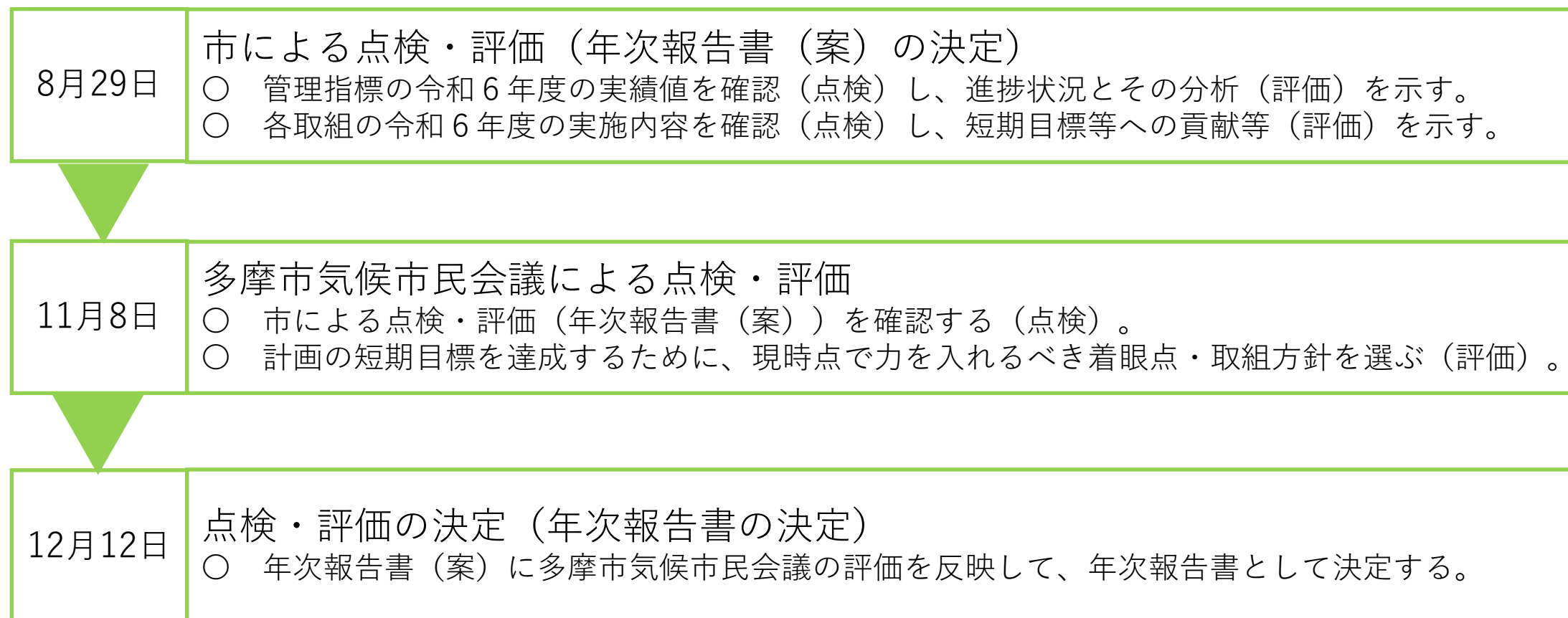
3 基本計画の点検・評価（年次報告書の内容）



※「分野横断的取組」と「分野別の取組み」の各取組は、市民・事業者・市の各主体別に設定している。市以外の主体の各取組実績は直接確認することができない（管理指標による間接確認）。

4 基本計画の点検・評価（年次報告書作成）の流れ

市及び多摩市気候市民会議による基本計画の点検・評価



5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

基本計画の実績は主として管理指標で確認します。

3 種類の指標で短期目標、重点戦略（着眼点）、分野別取組（取組方針）の進捗状況を確認できます。

① 環境指標

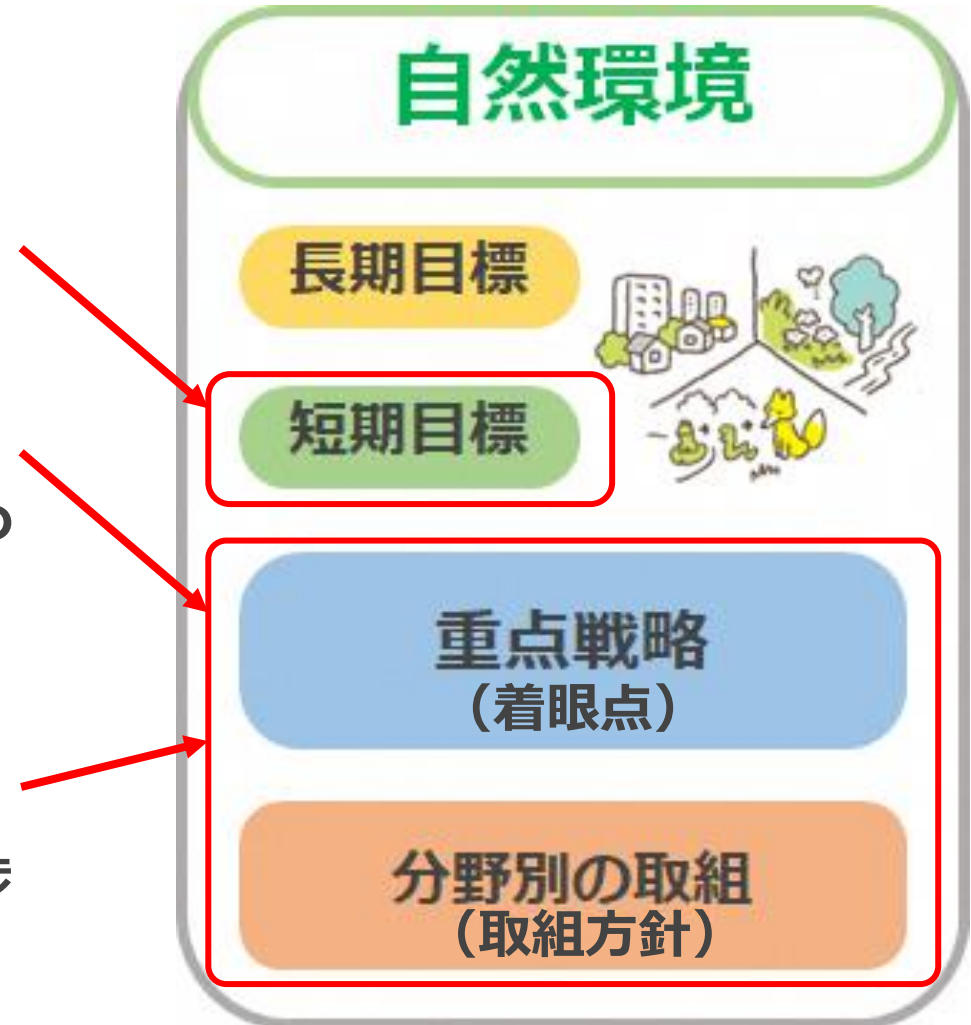
“健康診断”のように環境の状態を測るための指標

② 市民・事業者活動指標

“市民・事業者の取組成果”を「見える化」するための指標

③ 行政活動指標

“市（行政）の取組成果”として、施策・事業の進捗状況を測るための指標



5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

各管理指標の進捗状況は、実績値と目標値等との比較により、「↑」「⇒」「↓」で表示

		自然環境分野	生活環境分野	地球環境分野	環境活動分野
短期目標		↑×2 ⇒×1 ↓×0	↑×1 ⇒×1 ↓×2	↑×2 ⇒×0 ↓×3	↑×3 ⇒×0 ↓×0
重点戦略	着眼点 1		↑×4 ⇒×0 ↓×1		
	着眼点 2	↑×2 ⇒×0 ↓×0			
	着眼点 3	↑×1 ⇒×0 ↓×3			
	着眼点 4			↑×2 ⇒×0 ↓×0	
	着眼点 5	↑×2 ⇒×0 ↓×0			
取組方針A～C		↑×4 ⇒×0 ↓×1			
取組方針D～F			↑×5 ⇒×0 ↓×4		
取組方針G～I				↑×7 ⇒×0 ↓×4	
取組方針J～K					↑×6 ⇒×0 ↓×0
合計		↑×11 ⇒×1 ↓×4	↑×15 ⇒×1 ↓×10	↑×20 ⇒×0 ↓×11	↑×20 ⇒×0 ↓×4
割合		↑69% ⇒6% ↓25%	↑58% ⇒4% ↓38%	↑65% ⇒0% ↓35%	↑83% ⇒×0 ↓17%

- 「環境活動分野」は、「↑」の割合が最も高く(83%)、「↓」の割合が最も低い結果となりました(17%)
- 「生活環境分野」は、「↑」の割合が最も低く(58%)、「↓」の割合が最も高い結果となりました(38%)

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

自然環境

長期目標

持続可能なみどりの保全

短期目標

自然と暮らしが調和した 多摩のみどりづくり

- ◆ 水とみどりのネットワークの回復・形成
- ◆ 生物多様性にも配慮した暮らしの実践
- ◆ 持続可能なみどりの管理手法の確立



Point!

多摩市では、自然と共生するために水辺や公園を保存・維持して、生物多様性を大切にし、市民が持続可能な方法でみどりを管理することを目指しています。

管理指標の対象	解説	詳細解説の頁
短期目標	自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり	15 ページ
進捗状況	管理指標 3 つのうち 2 つが「↑」でした（67%）。	18 ページ
重点戦略（着眼点 2）	みどりの機能を生かすまちづくり	49 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
重点戦略（着眼点 3）	地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり	51 ページ
進捗状況	管理指標 4 つのうち 1 つが「↑」でした（25%）。	
重点戦略（着眼点 5）	各分野の活動を支える新たな市民協働の体制づくり	57 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
取組方針 A	生物の多様性の保全	15 ページ
進捗状況	管理指標 3 つのうち 3 つが「↑」でした（100%）。	
取組方針 B,C	みどりの保全・確保（B）、みどりの利活用（C）	18 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 1 つが「↑」でした（50%）。	

まとめ

- 短期目標は「↑」が 67%と 4 分野の中で 2 番目に良い進捗状況でした。
- 重点戦略（着眼点 3）の「↑」が 25%と他の着眼点 1～5 のの中では一番悪い進捗状況でした。
- 取組方針 B,C の「↑」が 50%と他の取組方針 A～K のの中では 2 番目に悪い進捗状況でした。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

自然環境

短期目標

- ◆ 水とみどりのネットワークの回復・形成
- ◆ 生物多様性にも配慮した暮らしの実践

取組方針A

- ◆ 生物の多様性の保全

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標	生物多様性の拠点（3地点）の在来生物の種類数（定性指標）		↑	—
	みどり率		↑	—
取組方針A の活動指標	市民・事業者	身近ないきものの投稿数	↑	—
		生き物調査隊への参加人数	↑	着眼点2
	行政	市民又は市民協働による、自然体験活動の回数	↑	—

〔解説〕

- ・ 生き物調査や河川の水質調査などで生物多様性の実態やみどり・水環境の状況を確認しました。
- ・ 外来生物の除去、公園、下水施設の維持管理等を通じて、みどり・生物多様性・水環境を保全しました。
- ・ 市民には市の調査や自然体験活動（生物多様性セミナー）などに参加して、環境保全の担い手としての実践や学習をしていただきました。特に市民参加型の生き物調査では、参加者が100人を超え、38,000件を超える投稿をしていただきました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

自然環境

- 短期目標
- ◆ 持続可能なみどりの管理手法の確立
- ◆ みどりの保全・確保（B）
- ◆ みどりの利活用（C）
- 取組方針B,C

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標		水辺・公園緑地の環境に対する市民満足度	⇒	—
取組方針B 取組方針C の活動指標	市民・ 事業者	みどりの市民活動団体数	⇩	—
	行政	樹木管理取組実施状況（定性指標）	⇧	着眼点2

〔解説〕

- ・公園緑地、街路樹、農地などの管理・保全をしました。また、都や市の指定天然記念物の樹木などの保全や史跡文化財での自然観察会、植物写真展、昆虫観察会を実施しました。
- ・アダプト制度に参加する団体の構成員の高齢化等により団体存続が厳しくなり、活動団体数は前年度よりも5団体減少しました。今後は、新たな担い手の拡充を進めていく必要があります。
- ・水辺・公園緑地の環境に対する市民満足度は、令和6年度は調査していないため実態が不明です。令和7年度は実施する予定となっています。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

生活環境

長期目標

安全・健康で快適な生活環境の実現

短期目標

安全・健康で快適な生活環境の保持

◆ 生活環境の保持

◆ 気候変動への適応力の強化



Point!
多摩市では、安全・健康で快適な暮らしを守り、気候変動に対応する力を強化していくことを目指しています。

管理指標の対象		解説	詳細解説の頁
短期目標		安全・健康で快適な生活環境の保持	24 ページ
	進捗状況	管理指標 4 つのうち 1 つが「↑」でした（25%）。	27 ページ 29 ページ
重点戦略（着眼点 1）		気候変動対策を通じた安全安心で持続可能なまちづくり	45 ページ
	進捗状況	管理指標 5 つのうち 4 つが「↑」でした（80%）。	
重点戦略（着眼点 2）		みどりの機能を生かすまちづくり	49 ページ
	進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
重点戦略（着眼点 3）		地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり	51 ページ
	進捗状況	管理指標 4 つのうち 1 つが「↑」でした（25%）。	
重点戦略（着眼点 5）		各分野の活動を支える新たな市民協働の体制づくり	57 ページ
	進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
取組方針 D		健康的で安全安心な暮らしの保持	24 ページ
	進捗状況	管理指標 4 つのうち 1 つが「↑」でした（25%）。	
取組方針 E		美しく快適なまちの保持	27 ページ
	進捗状況	管理指標 2 つのうち 1 つが「↑」でした（50%）。	
取組方針 F		気候変動への適応	29 ページ
	進捗状況	管理指標 3 つのうち 3 つが「↑」でした（100%）。	
まとめ			
○ 短期目標は「↑」が 25% と 4 分野の中で一番悪い進捗状況でした。			
○ 重点戦略（着眼点 3）の「↑」が 25% と他の着眼点 1～5 の中では一番悪い進捗状況でした。			
○ 取組方針 D の「↑」が 25% と他の取組方針 A～K の中では一番悪い進捗状況でした。			

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

生活環境

- 短期目標 ◆ 生活環境の保持（大気・水質）
- 取組方針D ◆ 健康的で安全安心な暮らしの保持

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標	大気汚染にかかる環境基準適合率		↻	—
	水質汚濁にかかる環境基準適合率		↓	—
取組方針D の活動指標	市民・事業者	clear skyサポート登録への参加事業者数（延べ数）	↓	—
		河川白濁等の水質事故件数	↓	—
	行政	アスベスト解体工事の事前調査に対する立入件数	↑	—
		工事業者等への河川汚濁対策の指導・啓発数	↓	—

〔解説〕

- ・ 大気、水質などの環境基準への適合を確認するため、河川や大気環境調査などを実施しました。その結果、光化学オキシダント（大気）、pHと大腸菌数（水質）が基準値を超過していました。
- ・ 公害発生の主な原因者である事業者に対しては、市の窓口で公害防止の注意喚起を実施していますが、事業所回りや現場立ち入りによる調査、指導は十分にできていない状況です。
- ・ 令和6年度は、道路側溝に泥や泡消火剤を流したことによる河川の水質事故が増加しました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

生活環境

- 短期目標
- ◆ 生活環境の保持（まちの美化）
- 取組方針E
- ◆ 美しく快適なまちの保持

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標		ポイ捨てのないきれいなまちと感じる市民の割合	↓	—
取組方針E の活動指標	市民・事業者	まち美化キャンペーン（多摩市市民清掃デー、ごみゼロデー）への参加団体・参加者数	↑	—
	行政	まち美化キャンペーンの実施回数	↓	—

〔解説〕

- ・ごみのポイ捨て防止やまちの美化の啓発、違法駐車や放置自転車などの削減に向けた普及啓発、街なみの景観保全の取組みなどを実施しました。
- ・駅周辺や川沿いの清掃活動を実施する、まち美化キャンペーンは、雨天のため、予定より1回少ない7回の実施となりました。
- ・ポイ捨てのないきれいなまちと感じる市民の割合は、基準値（令和元年度実績74%）より少ない70%でした。引き続き、まち美化キャンペーンなどで市民の意識向上に努めます。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

生活環境

- 短期目標 ◆ 気候変動への適応力の強化
- 取組方針F ◆ 気候変動への適応

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標		「過去（昭和53〔1978〕年～昭和62〔1987〕年の10年平均：13.7℃）に対する、最近10年間の年平均気温の変化（定性指標）」	↑	—
取組方針F の活動指標	市民・事業者	ハザードマップを確認している市民の割合	↑	—
	行政	開発事業、公共施設等（小規模建設工事を含む）における流域対策（定性指標）	↑	—
		（仮称）多摩市下水道総合治水対策方針の策定（定性指標）	↑	着眼点1

〔解説〕

- ・気候変動による気象災害への対策のため、激甚化・頻発化する豪雨を想定し、下水道・河川への雨水の流出量を抑制する下水対策、公園緑地等の樹木の適切な維持管理を実施しました。
- ・「多摩市洪水・土砂災害ハザードマップ」を活用した自助・共助の取組み、家庭での「マイ・タイムライン」の策定、事業所での事業継続計画（BCP）の策定について、情報提供・啓発をしました。
- ・熱中症予防についての周知啓発、気候変動による生態系、健康など様々な影響に対する適応策（生物生息状況等の把握、感染症対策）となる各取組を実施しました。

5 年次報告書の解説（令和 6 年度実績の評価）

地球環境

長期目標

持続可能で地球に優しいライフスタイルを取り入れた社会の実現

短期目標

カーボンハーフの達成に向けた行動の実践

◆ カーボンハーフ

◆ 資源循環



多摩市では、省エネルギーの推進と再生可能エネルギーへの転換、資源の有効活用を図り、2030 年カーボンハーフの達成を目指します。

管理指標の対象		解説	詳細解説の頁
短期目標		カーボンハーフの達成に向けた行動の実践	33 ページ
	進捗状況	管理指標 5 つのうち 2 つが「↑」でした（40％）。	36 ページ
重点戦略（着眼点 1）		気候変動対策を通じた安全安心で持続可能なまちづくり	45 ページ
	進捗状況	管理指標 5 つのうち 4 つが「↑」でした（80％）。	
重点戦略（着眼点 2）		みどりの機能を生かすまちづくり	49 ページ
	進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100％）。	
重点戦略（着眼点 3）		地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり	51 ページ
	進捗状況	管理指標 4 つのうち 1 つが「↑」でした（25％）。	
重点戦略（着眼点 4）		多様な価値観・ライフスタイルの中で環境配慮を促すまちづくり	54 ページ
	進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100％）。	
重点戦略（着眼点 5）		各分野の活動を支える新たな市民協働の体制づくり	57 ページ
	進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100％）。	
取組方針 G,H		省エネルギーの推進（G）、再生可能エネルギーの利用拡大（H）	33 ページ
	進捗状況	管理指標 4 つのうち 3 つが「↑」でした（75％）。	
取組方針 I		資源循環の推進	36 ページ
	進捗状況	管理指標 7 つのうち 4 つが「↑」でした（57％）。	
まとめ			
○ 短期目標は「↑」が 40％と 4 分野の中で 2 番目に悪い進捗状況でした。			
○ 重点戦略（着眼点 3）の「↑」が 25％と他の着眼点 1～5 の中では一番悪い進捗状況でした。			
○ 取組方針 I の「↑」が 57％と他の取組方針 A～K の中では 4 番目に悪い進捗状況でした。			

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

地球環境

- 短期目標
- ◆カーボンハーフ
- ◆省エネルギーの推進（G）
- ◆再生可能エネルギーの利用拡大（H）
- 取組方針G,H

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標		市内の二酸化炭素（CO2）排出量	↓	—
		市内のエネルギー消費量	↓	—
		太陽光発電設備設置容量（FIT制度）	↑	—
取組方針G 取組方針H の活動指標	市民・事業者	世帯当たり二酸化炭素（CO2）排出量（家庭部門）	↑	着眼点1
		世帯当たりエネルギー消費量（家庭部門）	↑	着眼点1
	行政	市施設における二酸化炭素（CO2）排出量	↑	着眼点1
		市施設における電気使用量	↓	着眼点1

〔解説〕

- ・省エネルギー行動やクリーンエネルギー導入についての普及啓発、高効率設備への更新の促進、市再エネの利用拡大とエネルギーの地産地消を通じて市内の二酸化炭素の排出量を削減します。
- ・市内の二酸化炭素排出量とエネルギー消費量は前年度より増加しました。事業者の新規開業によるものと推測されます。
- ・市施設における電気使用量は、基準年（令和4年度実績）に比べて増加しました。気温上昇に伴い、冷房設備の使用量が増加したと思われます。節電等を呼びかけ、電気量削減に努めます。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

地球環境

- 短期目標 ◆ 資源循環
- 取組方針I ◆ 資源循環の推進

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標	総ごみ量		↑	—
	資源化率		↓	—
取組方針I の活動指標	市民・事業者	市民1人1日あたりのごみ量	↑	—
		マイバッグやマイボトルを持ち歩く市民の割合	↓	着眼点3
		市民協働による河川清掃への参加人数	↓	着眼点3
	行政	スーパーエコショップとして認定した店舗数を増やす（定性指標）	↑	—
		食べ切り協力店として認定した店舗数を増やす（定性指標）	↑	—
		マイボトル用給水機の設置を増やす(定性指標)	↑	着眼点3
		市民協働による河川清掃での啓発実施回数	↓	着眼点3

〔解説〕

- ・ 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の取組の実践、ごみの分別の徹底、食品ごみ、プラスチックの削減を通じて、総ごみ量を削減し、資源化率を高める取組をしました。
- ・ 各種媒体による啓発、マイボトル用給水機の設置を増やして給水MAPを市公共施設等で配布するなどしましたが、マイバックやマイボトルを持ち歩く市民の割合は減少しました。
- ・ 資源化率は低下しました。今後、食品ごみの削減（食べ切り協力店の拡充等）、事業者と連携した共通のポップやステッカーによるプラスチック削減等により引き続き減量啓発を進めていきます。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

環境活動

長期目標

環境共生都市を支える市民協働の実現

短期目標

意識と行動の変革につながる
ムーブメント

◆ ムーブメントの醸成

◆ 連携・協働して取り組む体制の構築



Point!

多摩市では、一人ひとりの行動が社会を変え、その輪が広がるムーブメントをつくります。また、市民や団体、行政が協力し合い、みんなで環境を守る体制をつくっていきます。

管理指標の対象	解説	詳細解説の頁
短期目標	意識と行動の変革につながるムーブメントの醸成	39 ページ
進捗状況	管理指標 3 つのうち 3 つが「↑」でした（100%）。	42 ページ
重点戦略（着眼点 1）	気候変動対策を通じた安全安心で持続可能なまちづくり	45 ページ
進捗状況	管理指標 5 つのうち 4 つが「↑」でした（80%）。	
重点戦略（着眼点 2）	みどりの機能を生かすまちづくり	49 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
重点戦略（着眼点 3）	地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり	51 ページ
進捗状況	管理指標 4 つのうち 1 つが「↑」でした（25%）。	
重点戦略（着眼点 4）	多様な価値観・ライフスタイルの中で環境配慮を促すまちづくり	54 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
重点戦略（着眼点 5）	各分野の活動を支える新たな市民協働の体制づくり	57 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
取組方針 J	環境教育・環境学習の充実	39 ページ
進捗状況	管理指標 4 つのうち 4 つが「↑」でした（100%）。	
取組方針 K	市民協働による環境活動の促進	42 ページ
進捗状況	管理指標 2 つのうち 2 つが「↑」でした（100%）。	
まとめ		
○ 短期目標は「↑」が 100%と 4 分野の中で一番良い進捗状況でした。		
○ 重点戦略（着眼点 3）の「↑」が 25%と他の着眼点 1～5 の中では一番悪い進捗状況でした。		
○ 取組方針 J,K とともに「↑」100%でした。		

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

環境活動

- 短期目標
- ◆ ムーブメントの醸成
- 取組方針
- ◆ 環境教育・環境学習の充実

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標	環境啓発イベントや環境学習の機会に参加している又は参加したいと考える市民の割合		↑	—
	商品を選択する際には、環境配慮マークやCO2排出量の表示を参考に選ぶ市民の割合		↑	—
取組方針」 の活動指標	市民・事業者	環境啓発イベントに参加した子どもの人数	↑	—
		「じぶんごとプラネット」に取り組んだ市民の数（延べ数）	↑	着眼点4
	行政	子どもを対象とした環境啓発イベントの実施回数（事業）	↑	—
		SNSによる環境情報発信回数	↑	着眼点4

〔解説〕

- ・ 持続可能な社会の創り手を育成するため子どもから大人まで幅広い世代に向けて体験活動や環境学習の機会を提供しました。また、多様化したニーズにあった正確な情報を様々な方法で提供しました。
- ・ 広報や公式ホームページ等で、省エネ関係補助金、特定外来生物の周知、野生鳥獣の出没情報、公園再編モデル事業、グリーンライブセンターでの講習会やイベントなど、各種情報を発信しました。
- ・ 昨今の異常気象など直接的に感じる事が影響しているためか、市民の学習への参加や商品選択について、意識の高まりが感じられます。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

環境活動

- 短期目標
- ◆ 連携・協働して取り組む体制の構築
- 取組方針K
- ◆ 市民協働による環境活動の促進

管理指標			進捗	重複
短期目標 の環境指標		毎年度、気候市民会議を開催し、取組内容を1項目以上レベルアップしていく	↑	—
取組方針K の活動指標	行政	子どもみらい会議を継続していく（定性指標）	↑	着眼点5
		気候市民会議の開催回数（定性指標）	↑	着眼点5

〔解説〕

- ・ 市民・民間事業者など多様な主体が協働して取り組んでいくための体制づくりとして、子どもみらい会議や多摩市気候市民会議を実施しました。
- ・ 子どもみらい会議では、よりよい多摩市のまちづくりを目指して環境の視点から深く考えた提言がまとめられました。
- ・ 多摩市気候市民会議では、参加者が市民・事業者に行動変容を呼びかけるものポスターを作成しました。また、地域を超えて行動変容を広げる試みとして、近隣市との合同開催も実施しました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

重点戦略

着眼点1

気候危機への対策を通じた安全安心で持続可能なまちづくり

【該当分野】

自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
------	------	------	------

管理指標			進捗	重複
着眼点1の活動指標	市民・事業者	世帯当たり二酸化炭素（CO2）排出量（家庭部門）	↑	取組方針G,H
		世帯当たりエネルギー消費量（家庭部門）	↑	取組方針G,H
	行政	市施設における二酸化炭素（CO2）排出量	↑	取組方針G,H
		市施設における電気使用量	↓	取組方針G,H

〔解説〕

- ・住宅・建築物の脱炭素化のため補助金交付や関連情報の提供、再エネの利用拡大のため公共施設への再エネ導入、再市民・事業者への補助事業による再エネ電力導入の促進を実施しました。
- ・また、移動・交通の脱炭素化への取組や気候変動への適応の取組を実施しました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

重点戦略

着眼点2 みどりの機能を生かすまちづくり

【該当分野】	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
--------	------	------	------	------

管理指標			進捗	重複
着眼点2の活動指標	市民・事業者	生き物調査隊への参加人数	↑	取組方針A
	行政	樹木管理取組実施状況（定性指標）	↑	取組方針B,C

〔解説〕

- ・ 樹林などの持続的な育成管理体制の構築を実施するなどして、豊かなみどりを保全し、気候変動への適応（被害の防止・軽減）、気候変動の緩和（エネルギー消費低減、CO₂吸収）に貢献しました。
- ・ また、市民協働による生物多様性保全や生物多様性の理解促進の取組を実施しました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

重点戦略

着眼点3

地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり

【該当分野】

自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
------	------	------	------

管理指標			進捗	重複
着眼点3の活動指標	市民・事業者	マイバッグやマイボトルを持ち歩く市民の割合	↓	取組方針Ⅰ
		市民協働による河川清掃への参加人数	↓	取組方針Ⅰ
	行政	マイボトル用給水機の設置を増やす（定性指標）	↑	取組方針Ⅰ
		市民協働による河川清掃での啓発実施回数	↓	取組方針Ⅰ

〔解説〕

- ・食品ロスの削減の取組やエコショップ認定制度を変更して店舗を増加するなどして、資源循環型の生活の普及に取組みました。
- ・また、給水マップの配布などによるマイボトルを持ち歩く行動変容への誘導やマイクロプラスチックに関する啓発などでプラスチック対策を推進しました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

重点戦略

着眼点4

多様な価値観・ライフスタイルの中で環境配慮を促すまちづくり

【該当分野】

自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
------	------	------	------

管理指標			進捗	重複
着眼点4の活動指標	市民・事業者	「じぶんごとプラネット」に取り組んだ市民の数（延べ数）	↑	取組方針J
	行政	SNSによる環境情報発信回数	↑	取組方針J

【解説】

- ・カーボンフットプリントによるCO₂を見える化した生活・消費行動の見直しを紹介するなどして脱炭素型ライフスタイルへの転換の取組みを実施した。
- ・また、市のイベント、市民生活に関わる注意喚起など環境に関係する様々な情報をSNS等の各種媒体で情報発信しました。

5 年次報告書の解説（令和6年度実績の評価）

重点戦略

着眼点5 各分野の活動を支える新たな市民協働の体制づくり

【該当分野】	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
--------	------	------	------	------

管理指標			進捗	重複
着眼点5の活動指標	市民・事業者	子どもみらい会議を継続していく（定性指標）	↑	取組方針K
	行政	気候市民会議の開催回数（定性指標）	↑	取組方針K

〔解説〕

- ・多摩エコ・フェスタを開催するなどして、環境問題について取り組んでいく市民団体、民間事業者等の交流の場を設けて活動の支援をしました。

6 多摩市気候市民会議の評価

現時点で力を入れるべき短期目標

選ばれた短期目標	令和6年度の実績からみた進捗状況の評価や現時点で力を入れるべき理由
【自然環境】 自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり	・生物多様性が失われるのは、生態系のバランスが崩れるから（作物などが取れなくなり、自然災害が起きやすくなる）
【生活環境】 安全・健康で快適な生活環境の保持	・ポイ捨てが多く、ゴミの分別ができていないのをよく見かけるため
【地球環境】 カーボンハーフの達成に向けた行動の実践	・マイバッグの利用率が低く、もっと普及させるため

短期目標を達成するために、 現時点で力を入れるべき着眼点・取組方針

選ばれた着眼点	令和6年度の実績からみた進捗状況の評価や現時点で力を入れるべき理由
着眼点3 地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり	・ダウン傾向が多くて、意識して行うべきだと思ったから ・ごみが落ちている街よりも、ごみが落ちていない街のほうが良いよね。カラスやハクビシンのえさとなりうるごみが、現段階では多いから ・身近で実践し易いから

日時：令和7年11月8日（土）14:00～18:00
会場：多摩市役所301・302会議室
参加：18人 内訳：無作為抽出された市民4人
市内高校の生徒12人
多摩市民環境会議2人
手法：3グループによるグループワーク⇒発表⇒投票

自然環境 短期目標 自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり ◆水とみどりのネットワークの回復・形成 ◆生物多様性にも配慮した暮らしの実践 ◆持続可能なみどりの管理手法の確立	生活環境 短期目標 安全・健康で快適な生活環境の保持 ◆生活環境の保持 ◆気候変動への適応力の強化
地球環境 短期目標 カーボンハーフの達成に向けた行動の実践 ◆カーボンハーフ ◆資源循環	環境活動 短期目標 意識と行動の変革につながるムーブメント ◆ムーブメントの醸成 ◆連携・協働して取り組む体制の構築



着眼点1	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
着眼点2	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
着眼点3	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
着眼点4	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動
着眼点5	自然環境	生活環境	地球環境	環境活動

7 みどりと環境審議会による基本計画の見直しの提案

多摩市気候市民会議の評価を踏まえ、
着眼点3「地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり」の取組の中から、
見直すべき取組み（「重点的に実施する取組」及び「改善すべき取組み」）があるか確認する。

第1回
(本日)

着眼点3の取組内容等（市民・事業者・市の各主体別の取組内容、進捗状況とその分析等）の確認

見直すべきものがあれば

第2回
(2月20日)

着眼点3の取組等の見直しの提案（市民・事業者・市の各主体の全取組対象）

8 着眼点 3 の進捗状況

		管理指標						進捗状況の分析
		所管課	基準値 (年度)	実績値	目標値 (令和15年度)	進捗	目標値 の種類	
				6年度				
着眼点 3	マイバッグやマイボトルを持ち歩く市民の割合 ※市民・事業者活動指標	資源循環推進課	83.5% (令和3)	80.6% (令和5)	100%	↓	①	広報や公式ホームページ、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」などの各種媒体を活用して啓発を実施した。市民団体と連携して給水MAPを更新し、市公共施設等で配布しマイボトルを持ち歩く行動の誘因を図った。令和7年度も引き続き市民団体と連携して啓発を進める。
	市民協働による河川清掃への参加人数 ※市民・事業者活動指標	環境政策課	206人 (令和4)	122人	240人	↓	①	参加人数は減少したが、小学生から大学生までの若い世代にも参加いただいている。外作業のため気温や天候に左右されやすいが、定期的に清掃を行うことで、多くの方にこの活動を知ってもらい、参加人数の増加に繋げたい。
	マイボトル用給水機の設置を増やす【定性指標】 ※行政活動指標	資源循環推進課	9台 (令和4)	19台	前年度よりも増やす	↑ (10%)	⑤	市民団体との協働により作成した「給水MAP」を配布、活用を促していく。また、市内公共施設へ設置依頼をするなど、新たな設置場所を検討する。
	市民協働による河川清掃での啓発実施回数 ※行政活動指標	環境政策課	11回	10回	12回	↓ (0%)	③	雨天中止などにより、令和6年度は10回の実施となった。引き続き、市ホームページで活動予定や実施報告を掲載するほか、必要に応じて河川管理者と調整を行うなど、支援を行っていく。

9 着眼点3の取組み

【3-1】資源循環型の生活の普及

市民	● 詰め替え可能な商品や環境に配慮した商品を買うようにして、ごみの減量に心がけます。
	● 市民団体等は、市と連携し、マイバッグ運動やノーレジ袋などの活動を推進します。
事業者	● 製品、容器などがごみにならないような製造、加工、販売などに努めるとともに、ごみになった場合、適正な処理が可能なものとし ます。
	● 商品やサービスのライフサイクルの各課程で排出された温室効果ガスをCO2排出量に換算し、商品・サービスに表示する「カーボン フットプリント」により、自社の製品・サービスのCO2排出量の「見える化」に努めます。
市	● 資源循環型生活についての普及啓発〈新規〉 生ごみ・食品ロスの削減（エコクッキング、ダンボールコンポストなど）、使い捨ての食器等の見直し（耐久性のある食器、カト ラリーの使用の推奨など）、エコショップの利用促進について情報提供・啓発します。
	● サブスクリプションやリース、シェアリング・エコノミーに関する情報提供・普及啓発〈新規〉 サブスクリプションやリース、シェアリング・エコノミーなど、資源循環型生活に役立つ新たなサービス等について情報提供・啓 発します。
	● エコショップの推進 ばら売り、量り売り、詰め替え商品の販売など、食品ロスの削減や資源の店頭回収等の取組により、ごみの発生抑制や減量に取り 組む店舗をエコショップとして認定します。
	● 家庭等から出される廃油のバイオ燃料等への活用方策の検討〈新規〉 家庭等から出される廃油のバイオ燃料等への活用方策について検討します。

9 着眼点3の取組み

分野横断的取組	所管課	令和6年度の取組		短期目標、着眼点に対する貢献	
		有無	有：取組内容　無：理由	評価	評価の理由及び 今後の方針（取組の見直し含む）
【3-1】資源循環型の生活の普及					
○資源循環型生活についての普及啓発 〈新規〉	資源循環推進課	有	特に食品ロスの削減に力を入れて啓発を実施した。mottECO普及推進事業の展開、エコレシピの開発、食べきり協力店やエコショップなどの事業者と一緒に啓発に取り組んだ。またリユース食器の普及啓発も再開しイベントごみの削減に取り組んだ。	○	食品ロス削減については重点的に啓発を実施した。企業と協働でエコレシピの開発を実施し市内店舗には掲示を依頼した。またmottECO普及推進事業として、市内協力店舗に容器等を配布し、協力店には食べきり協力店にも合わせて申請してもらい、食べきり協力店の充実を図った。また、使い捨てプラスチックや食品ロス削減のポップやステッカーを作成・配付を行った。実施にあたっては事業者と対話しながら進めた。ダンボールコンポストの普及では親子講習会やサロン活動を通じて、市民との対話を行った。事業者や市民との対話を通じて、環境問題を自分事として意識してもらうことに繋がっており、今後もこうした啓発を継続していく。
○サブスクリプションやリース、シェアリング・エコノミーに関する情報提供・普及啓発〈新規〉	資源循環推進課	無	他自治体の情報収集等を行い、研究中のため、具体的な取り組みには至らなかったが、対面型啓発イベントで配布しているチラシ類にはQRコードを入れ、スマートフォンなどから市の公式HPから民間事業者の取組に検索できるようにして、若年世代への訴求を図った。	×	他自治体へのヒアリングでは、民間のシェアリング・エコノミーなどについては安全性や後年の費用負担なども問題があると伺っており慎重に対応したい。引き続きエコにこセンターでのリユースの取組について市も広報を行うとともに、他市の先行事例なども検証していく。
○エコショップの推進	資源循環推進課	有	資源循環に積極的に取り組んでいる店舗をエコショップと定め認定している。令和6年度はより取り組みを評価できるように制度を変更し、前年度から13店舗増加した。	○	新規店舗にも積極的に声掛けを行い、店舗数の充実を図った。店舗が増えることで環境にやさしい消費行動を推進することができた。今後も「多摩市エコショップ」の認知度を上げるために広報等を行い、店舗の登録だけでなく利用者の増加を図ることで、個人や家庭でできる「エコ活動」として引き続き啓発を進めていく。
○家庭等から出される廃油のバイオ燃料等への活用方策の検討〈新規〉	資源循環推進課	有	東京都および民間事業者と連携して、市内6箇所での拠点回収の実証実験を令和7年度に行うこととなり、廃食油のSAFへの活用を図る。	○	東京都が募集したモデル事業に本市も参加し、令和7年5月より拠点回収を始め、SAFへの活用を図っている。令和7年10月31日まで継続する。ごみとして廃棄されていた食用油を回収し、航空燃料にリサイクルすることで持続可能な資源利用を実現するまちづくりへの意識啓発となっている。今後の展開については回収実績や東京都の動向を踏まえ、決定していく。

9 着眼点 3 の取組み

【3-2】プラスチック対策の推進

市民	● マイバッグを持参して過剰包装を断ったり、詰め替え可能な商品を買ったりして、プラスチックごみの減量に心がけます。
	● 使い捨てのプラスチック製品の使用を極力避けて、マイボトル・マイ箸・マイ容器などを使うようにします。
	● 市民団体等は、市と連携し、河川の清掃やプラスチックごみの除去、プラスチック利用削減の啓発などの活動を推進します。
事業者	● プラスチック製品・容器等がごみにならないような製造、販売などに努めます。
	● 食品トレーやペットボトルなどの店頭回収を進めます。
	● 地域での清掃活動などに協力します。
市	● プラスチックの利用の削減〈新規〉 使い捨てプラスチックの削減に向けて、行動変容やライフスタイルの変革について情報提供・啓発します。
	● マイボトル用給水器の設置、マイボトルの活用についての啓発 ペットボトル等の使い捨てプラスチック容器の使用削減に向け、公共施設でのマイボトル用給水機の活用や、マイボトルの利用について情報提供・啓発します。
	● プラスチックの適正な分別〈新規〉 プラスチックの適正な分別とポイ捨て防止について情報提供・啓発します。
	● プラスチックのリサイクルの推進〈新規〉 容器包装プラスチック、製品プラスチックのリサイクルを進めるとともに、リサイクルプラスチックを原料とする製品の普及を図ります。
	● 河川清掃及びプラスチックごみ対策の啓発〈新規〉 市民団体との協働による河川清掃を定期的実施するとともに、市内の河川でのプラスチックごみやマイクロプラスチックの流出などについて情報提供・啓発します。
	● マイクロプラスチック対策の推進〈新規〉 企業や団体などと連携し、テニスコートなどで使用されている人工芝などから発生するマイクロプラスチックの流出抑制対策に取り組めます。

9 着眼点3の取組み

分野横断的取組	所管課	令和6年度の取組		短期目標、着眼点に対する貢献	
		有無	有：取組内容 無：理由	評価	評価の理由及び 今後の方針（取組の見直し含む）
【3-2】プラスチック対策の推進					
○プラスチックの利用の削減（新規）	資源循環推進課	有	市民団体と協働で給水機の普及啓発を実施、市民団体が作成した「給水スポットMAP」を市内公共施設やイベントで配布した。	○	身近な公共施設に設置した給水スポットについて、啓発や広報を行うことで、安易にペットボトル飲料を購入する生活様式からマイボトルを持ち歩く行動変容への誘導を図り、プラスチックの利用の削減に寄与した。今後も引き続き、市民団体と協働で啓発を進める。
○マイボトル用給水機の設置、マイボトルの活用についての啓発	資源循環推進課	有	市民団体と協働で給水機の普及啓発を実施、市民団体が作成したチラシを印刷し各施設やイベントで配布した。	○	市民団体が作成した「給水MAP」を市内公共施設へ配布し普及啓発を行った。今後も引き続き、市民団体と協働で啓発を進める。
○プラスチックの適正な分別（新規）	資源循環推進課	有	ごみ減量啓発情報紙「ACTA」やたま広報、市公式SNS、ごみ分別アプリ、ごみ・資源収集カレンダーなどを通じて啓発を実施した。	○	令和5年12月から40ℓのプラスチック指定袋を作成し、従来は粗大ごみで排出されていたプラスチックの再資源化を推進し、併せて各種媒体を活用して啓発を実施した。今後も引き続き啓発を実施する。
	環境政策課	有	多摩市まち美化キャンペーンでポイ捨て防止とマイクロプラスチックに関する啓発のアナウンスを行った。	○	まち美化キャンペーンを通じて、駅周辺を通りかかる人々に対して、ポイ捨ての抑止やマイクロプラスチックの問題についての情報提供・啓発ができた。今後も継続して多摩市まち美化キャンペーンを実施し啓発を続けていく。
○プラスチックのリサイクルの推進（新規）	資源循環推進課	有	資源ごみとして「6,211t」回収したうち、プラスチック系として「1,081t」を処理した。	○	引き続きプラスチック系のリサイクルを推進し、施設見学時やイベントでリサイクルプラスチックを原料とする製品の紹介をし、普及啓発を実施する。
○河川清掃及びプラスチックごみ対策の啓発（新規）	環境政策課	有	月1回、市民団体と協働で河川の清掃を実施したほか、環境学習セミナーやまち美化キャンペーンなどのイベントでマイクロプラスチック啓発動画のリーフレットを配布し、エコ・フェスタでは動画の作成に協力いただいた「よみがえれ、大栗川を楽しむ会」の展示と共に動画を流した。	○	河川の清掃活動やイベント等で周知をし、マイクロプラスチックの問題について積極的に啓発することができた。今後も河川清掃及びプラスチックごみ等の流出の情報提供や啓発を続ける。
○マイクロプラスチック対策の推進（新規）	スポーツ振興課	有	企業と連携しマイクロプラスチック流出抑制対策の実証実験を実施するとともに、人工芝張替えと合わせて、マイクロプラスチック流出抑制フィルター等を設置し対策を行っている。	○	マイクロプラスチック流出抑制フィルターの設置により河川へのマイクロプラスチック流出を防ぎ生物多様性の保全に貢献している。今後も引き続き流出対策を行う。

9 着眼点3の取組み

【3-3】食の地産地消の普及		
市民	●	家庭菜園や農業体験を通じて、農地や農業の多面的機能への理解を深めます。
	●	新鮮な多摩産の農産物を進んで購入し、地元の農家を応援します。
事業者	●	農業者は市民と農とのふれあいの場となる体験農園、市民農園の開設を検討します。
	●	地元農産物について、様々な媒体により積極的にPRを行います。
市	●	地元の食材の活用や普及啓発〈拡充〉 事業者・農業者団体等との連携のもと、地元農産物のPRを行うとともに、地元の食材の活用について情報提供・啓発します。

分野横断的取組	所管課	令和6年度の取組		短期目標、着眼点に対する貢献	
		有無	有：取組内容 無：理由	評価	評価の理由及び 今後の方針（取組の見直し含む）
【3-3】食の地産地消の普及					
○地元の食材の活用 や普及啓発（拡充）	経済観光課	有	10月に農業ウォッチングラリーを実施し、一ノ宮地区及び東寺方地区の農業関係者と連携して、多摩市産の農産物のPRを行った。 また、多摩市産農産物応援サイト「agri agri」に、多摩市産農産物についての情報を掲載し、広く情報提供を行った。	○	農業ウォッチングラリーの参加者や、多摩市産農産物応援サイト「agri agri」にアクセスした人に、多摩市産の農産物について知ってもらうことにより、地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり及び食の地産地消の普及に寄与することができた。今後も多摩市産の農作物のPRのため、継続して実施したい。